

市内遺跡2

2009.3

宮崎県都城市教育委員会

序文

本書は、都城市教育委員会が各種開発に対し埋蔵文化財の保護を図るため、平成 20 年度国県補助を受け実施した市内遺跡の試掘・確認調査の報告書です。

都城市は平成 18 年 1 月 1 日に旧都城市と北諸県郡の 4 町（旧山之口町、旧高城町、旧高崎町、旧山田町）が合併し、新都城市が誕生しました。平成 20 年度からは、旧市・町の埋蔵文化財業務の集約を図り、新市域を包括した業務に取り組んでいくこととなりました。

本書が地域の文化財保護への理解を深める一助となり、学術資料として広く活用していくだければ幸いです。

試掘・確認調査に従事していただいた市民の皆様を始め、地権者ならびに開発関係者の御協力を賜りましたことに対し深く感謝申し上げます。

平成 21 年 3 月

都城市教育委員会
教育長 玉利 謙

例言

1. 本書は、各種開発事業に伴い、都城市教育委員会が国県補助を受けて平成20年度に実施した市内遺跡発掘調査報告書で、市内11地点（事業）において実施した試掘・確認調査の成果を掲載した。

2. 調査主体 都城市教育委員会

教育長 玉利 譲

教育部長 岩崎 透

文化財課長 和田芳律

副課長 常盤公生

主幹 矢部喜多夫

副主幹 栗畠光博

調査担当 栗畠光博 米澤英昭 栗山葉子 山下大輔 加賀淳一 下田代清海 中村友昭

3. 本書に用いたトレンド配置図、土層断面図の製図は、各調査担当者が作成した図面を元に栗山が行った。遺物の実測は栗畠・栗山・山下・中村・奥利根子・水光弘子が行い、製図は栗山・中村が行った。

4. 本書に掲載した図面の製図は株式会社CUBIC「トレースくん Cubic Ver.3.0」を用い、ADOBE ILLUSTRATOR CS3にて編集を行っている。

5. 現場の写真撮影は、各調査担当者が行った。

6. 合併に伴い、1市4町の遺跡番号が一部重なるため、下記のように変更を行った。

* (旧) が旧遺跡番号、(新) が合併後の新しい遺跡番号の表記である。

都城市 : 1001 (旧) → M1001 (新) 山之口町 : なし → YK1 (新)

山田町中霧島地区 : N01 (旧) → YD - N01 (新) 山田町山田地区 : Y01 (旧) → YD - Y01 (新)

高城町 : 1001 (旧) → TJ1001 (新)

高崎町大字前田 : M001 (旧) → TZ - M001 (新) 高崎町大字大牟田 : 0001 (旧) → TZ - 0001 (新)

高崎町大字東霧島 : T001 (旧) → TZ - T001 (新) 高崎町大字鶴瀬 : N001 (旧) → TZ - N001 (新)

高崎町大字江平 : E001 (旧) → TZ - E001 (新) 高崎町大字笛水 : H001 (旧) → TZ - H001 (新)

6. 本書で使用した遺構の略記号は以下のとおりである。

SC (土坑) SD (溝状遺構)

7. 出土遺物は都城市教育委員会にて保管している。

8. 本書の執筆・編集は各担当者の結果報告を基に、栗山が行った。

本文目次

1. 試掘・確認調査の記録	1
公共事業	
① 大岩田村ノ前遺跡（下長飯町）	3
② 志和池地区（下水流町）	4
③ 五十市中学校（久保原町）	5
④ 庄内小学校遺跡（庄内町）	6
⑤ 王子原遺跡（安久町）	8
⑥ 前田第1遺跡 栗山第1遺跡 桑木原第2・3遺跡 二重原遺跡（山田町）	10
⑦ 鈴川第1遺跡（菫子野町）	14
民間開発	
⑧ 柳の城跡（高崎町）	15
⑨ 牧ノ原遺跡群（高城町）	16
⑩ 大牟遺跡（梅北町）	20
⑪ 新原・出口遺跡（高木町）	21

1. 試掘確認調査の記録

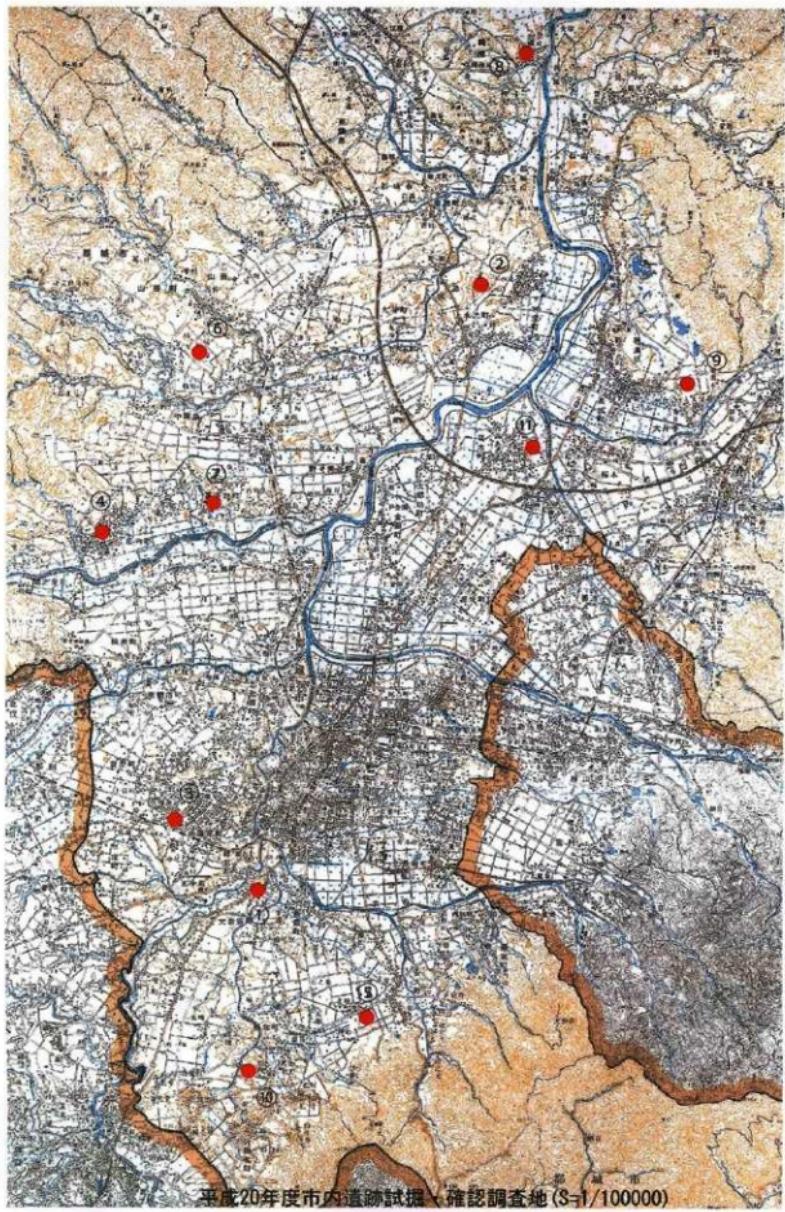
都城市は宮崎県の南西部に広がる都城盆地に位置し、北西に霧島連山、東に鰐塚山系に開まれ、南側が開けて鹿児島県境を経て志布志湾を望む。盆地は都城市、北諸県郡三股町と鹿児島県曾於市的一部が含まれ、当市の面積はおよそ 653 km²と広く、標高は最高（高千穂山頂）で 1,574m、最低（高城町四家の本八重）で 56m、市街地で 150m ほどを測る。河川は大淀川を含む 7 本の 1 級河川が葉脈状に流路し、それらに多数の小河川が流れ込み、地下水や湧水にも恵まれている。

本市は平成 18 年 1 月 1 日付けで旧都城市と北諸県郡の四町（旧山之口町、旧高城町、旧高崎町、旧山田町）で合併を行い鹿児島市、宮崎市に次ぐ人口規模で、農畜産業を中心とした南九州の拠点都市である。

平成 20 年度、公共事業や民間開発等の各種開発事業に伴い、都城市教育委員会が国県の補助を受けて実施した 11 件の試掘・確認調査を報告する。

番号	遺跡名（遺跡番号）	所在地	調査原因	調査機関	調査面積
①	大岩田村ノ前（M5030）	下長原町5441外	公園造成	2008. 5. 7～8	24m ²
②	志和池地区	下水流町2023-1外	公園造成	2008. 5. 21～23	74m ²
③	五十市中学校	久保原町2-6	学校	2008. 11. 5	4m ²
④	庄内小学校遺跡（M8068）	庄内町12680	学校	2008. 11. 11～13	20.4m ²
⑤	王子原遺跡（M7052）	安久町6852	その他の建物 (市営住宅)	2008. 7. 31～8. 1	28m ²
⑥	前田第1遺跡（YD-Y01） 撫山第1遺跡（YD-Y04） 柿木原第2・3遺跡 (YD-08・09) 二重原遺跡（YD-Y03）	山田町柿木原・竹脇	農業関連	2008. 8. 19～ 2008. 12. 15	100m ²
⑦	鈴川第1遺跡（M8018）	萬子野町 市道萬子野396号線	道路	2008. 6. 30	8m ²
⑧	柳の城跡（TZ-N002）	高崎町淵瀬蔵元2844-1	農業関連	2008. 4. 24	12m ²
⑨	牧ノ原遺跡群（TJ2017）	高城町大井出 3554、3556、3558	農業関連	2008. 4. 28～5. 9	120m ²
⑩	大年遺跡（M7031）	梅北町13667番 1	農業関連	2008. 11. 18～19	28m ²
⑪	新原・出口遺跡（M9009）	高木町4122外	宅地造成	2008. 12. 24～26	28m ²

平成 20 年度市内遺跡試掘・確認調査地一覧表



平成20年度市内遺跡試掘・確認調査地 (S=1/100000)

① 大岩田村ノ前遺跡（遺跡番号：M5030）

所在地 宮崎県都城市下長飯町5441外
 調査原因 公園造成
 調査期間 2008.5.7~8

調査面積 24m² (対象面積:2,064m²)
 調査担当者 栗山葉子
 処置 工事着手

位置と環境

都城盆地を南北に流れる大淀川とその支流である梅北川に挟まれた、標高約158mの梅北台地に位置する。

市道を挟んだ南東隣接地は、昭和63年に都城市斎場建設に先立ち発掘調査を実施しており、縄文時代後～晩期、弥生時代前～中期、古代～中世の遺構・遺物が検出されている。

試掘結果

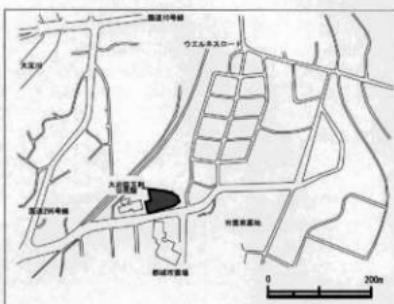
対象地に2m×2mのトレーナーを6箇所設定した。
 1・2Tでは、表土の下に桜島文明軽石から霧島御池軽石までが良好に堆積していた。

3・4・6Tでは桜島文明軽石下の黒色土から霧島御池軽石まで削平を受けていた。また、3Tでは鬼界アカホヤ火山灰まで掘り下げを行った。

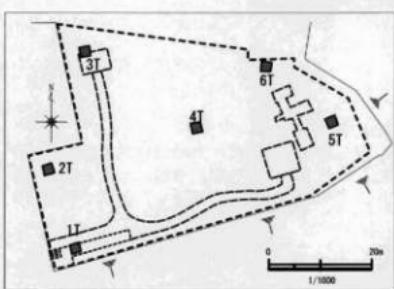
いずれのトレーナーからも遺構・遺物は確認されなかった。

まとめ

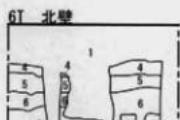
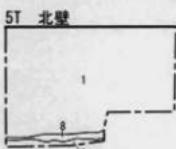
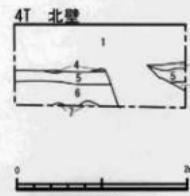
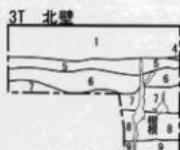
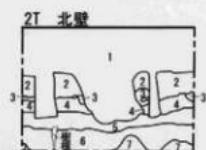
対象地にて遺構・遺物は確認されていないが、周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれるため、土木工事等を行う際は、文化財保護法第94条第1項に基づく通知が必要である。



調査区位置図



トレーナー配置図



- 1. 表土及び造成土
- 2. 旧耕作土・(近世)
- 3. 桜島文明軽石 (15世紀後半)
- 4. 黒色粘質シルト土
- 5. 梅色粘質シルト土 (霧島御池軽石含む)
- 6. 梅色粘質シルト土 (霧島御池軽石多く含む)
- 7. 霧島御池軽石 (約4,200年前)
- 8. 黒色粘質シルト土
- 9. 鬼界アカホヤ火山灰 (約6,300年前)

トレーナー土層断面図

② 志和池地区

所 在 地 宮崎県都城市下水流町2023-1外
 調査原因 公園造成
 調査期間 2008.5.21～23

調査面積 74m²(対象面積:約14,000m²)
 調査担当者 栗山葉子・山下大輔
 处置 工事着手

位置と環境

対象地は大淀川とその支流である丸谷川に挟まれた、標高約150mの谷頭台地に位置する。

谷頭侵食によって形成された細く小さい谷が枝状に入り込んでおり、現況は山林及び谷である。

試掘結果

山林部に8箇所、谷部に2箇所のトレンチを設定した。

7Tでは地表から3m弱の黒色土が堆積し、その下からは砂利が確認され、砂利に達した時点で湧水が認められた。

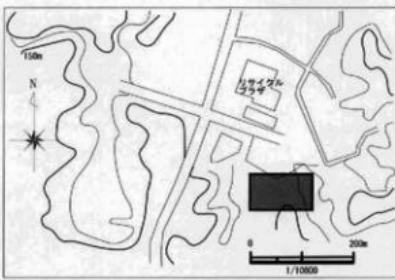
10Tでは5m程の盛土(近世以降)の下にシラスが堆積していた。

山林部では、8Tで、霧島御池軽石上位の黒色土が確認され、その外のトレンチでは霧島御池軽石以下、黄褐色土、鬼界アカホヤ火山灰、スコリアを含む黒～暗褐色土、黄褐色土、シラスの順に堆積が認められた。

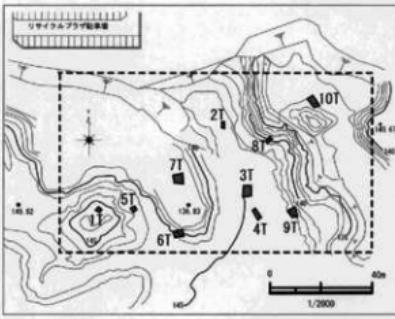
何れのトレンチからも遺構・遺物は確認されていない。

まとめ

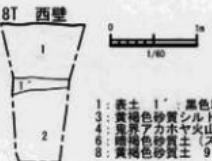
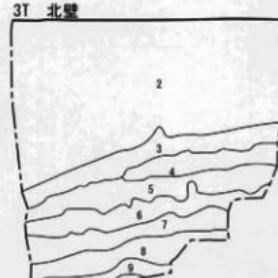
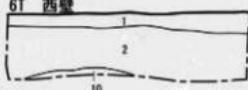
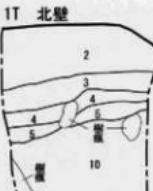
対象地からは遺構・遺物が確認されておらず、また、周知の埋蔵文化財包蔵地にも含まれていないため、文化財保護法に係る諸手続きは不要である。



調査区位置図



トレンチ配置図



- 1: 表土 2: 黒色粘質シルト土 3: 霧島御池軽石(約4,200年前)
 4: 黄褐色砂質シルト土(霧島御池軽石をわずかに含む)
 5: 黄褐色砂質土(約6,300年前)
 6: 鬼界アカホヤ火山灰
 7: 黄褐色砂質土(スコリア粒を多く含む)
 8: 黄褐色砂質土(スコリア粒・バミス多く含む)
 9: 黄褐色砂質土 10: シラス

トレンチ土層断面図

③ 五十市中学校

所在地 宮崎県都城市久保原町2-6
 調査原因 学校
 調査期間 2008.11.5

調査面積 4m² (対象面積:4,000m²)
 調査担当者 栗山葉子
 処置 事業着手予定

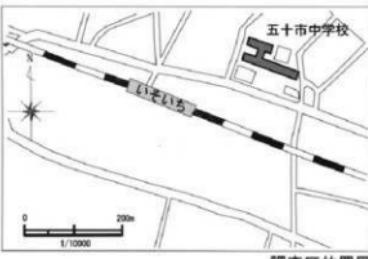
位置と環境

都城盆地西側の義原台地に位置し、標高165mを測る。周辺には台地端部を中心に遺跡が所在する。対象地西には縄文時代の遺構・遺物が確認されている西原第2遺跡が位置している。

調査結果

改築計画が、現校舎の規模とほぼ同じであるため、2m×2mトレチを1箇所設定し、霧島御池軽石まで掘り下げを行った。

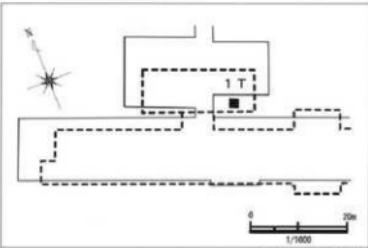
表土及び盛土の下位に黒色土、黒褐色土、暗褐色土、霧島御池軽石の順で良好な堆積が認められたが、遺構・遺物は確認されていない。



調査区位置図

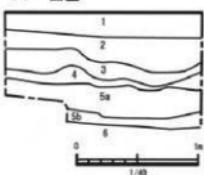
まとめ

対象地からは遺構・遺物が確認されておらず、また、周知の埋蔵文化財包蔵地にも含まれていないため、文化財保護法に係る諸手続きは不要である。



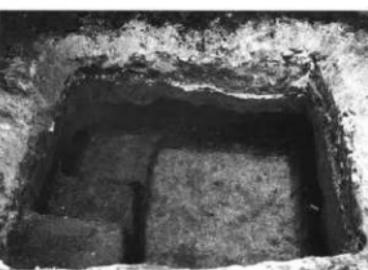
トレチ配置図

1T 西壁



1: シラス・土壌
 2: 黒色土
 3: 黑褐色土
 4: 暗褐色土
 5a: 霧島御池軽石
 5b: 霧島御池軽石
 6: 霧島御池軽石

トレチ土層断面図



トレチ西壁

④ 庄内小学校遺跡 (M8068)

所 在 地 宮崎県都城市庄内町12680
 調査原因 学校
 調査期間 2008.11.11～13

調査面積 20.4m² (対象面積) : 約1,000m²
 調査担当者 栗山葉子
 处置 発掘調査

位置と環境

対象地は庄内川北岸の庄内川段丘面上に位置し、標高約155mを測る。背後には中世城郭である安永城が位置し、近世にはその麓に地頭板屋が置かれていた。

調査結果

2m×2m トレンチを4箇所、1m×4.4m トレンチを1箇所設定し、霧島御池軽石層まで掘り下げを行った。

3・4Tが位置する対象地南側以外の範囲では、既に霧島御池軽石層まで削平を受けていたものの、2Tでは土師器片数点を埋土に含む柱穴が確認され、5Tにおいても同様な埋土の柱穴が検出された。また、1Tでは硬面を含む構造遺構が検出されており埋土より近世(幕末)の遺物が多数検出されている。



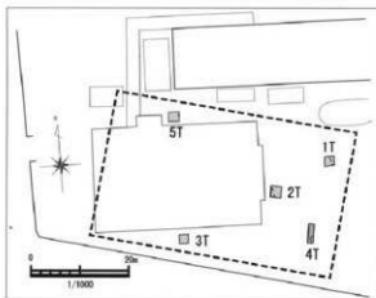
調査区位置図

出土遺物

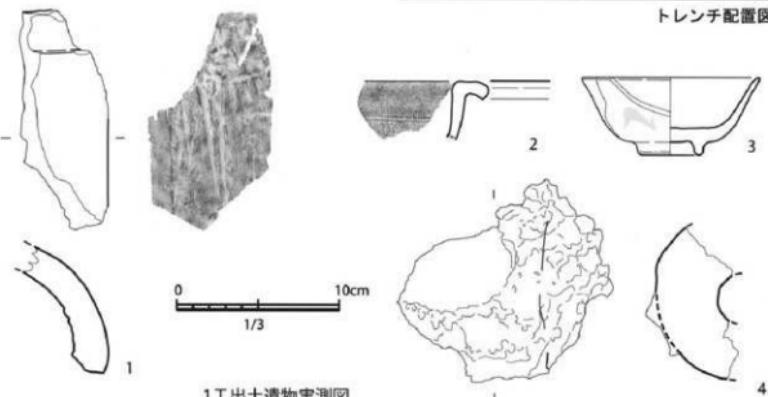
1～4は、1T検出の構造遺構内出土遺物である。1は瓦で、内面に布目が残る。2は薩摩焼の擂鉢。3は肥前系染付碗。4は輪の羽口。

まとめ

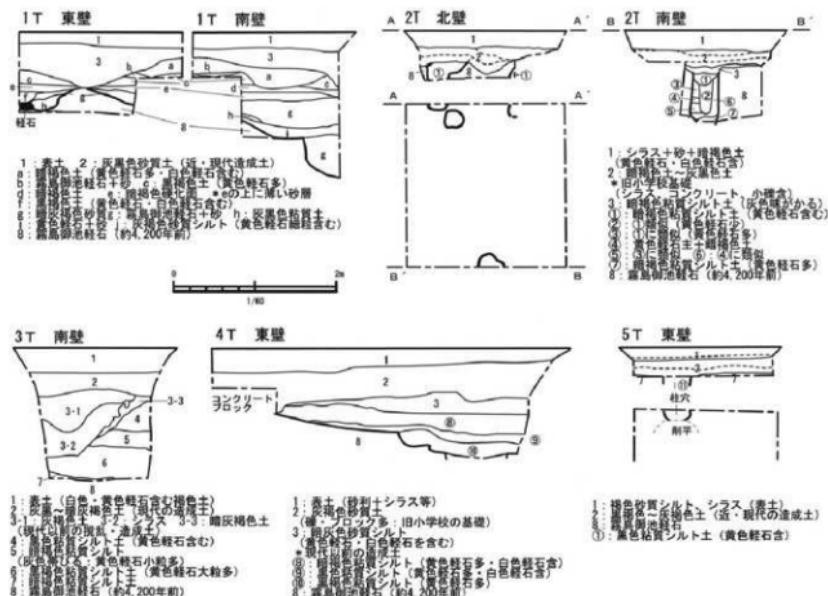
対象地では一部を除き遺物包含層が既に削平されているものの、中世～近世の遺構・遺物が確認されているため、工事に際し事前の発掘調査が必要である。



トレンチ配置図



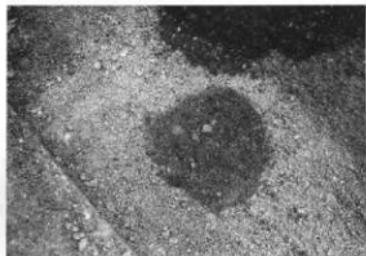
1T出土遺物実測図



トレンチ土層断面図・平面図



1丁南壁(溝状遺構断面)



5T柱穴検出状況(西より)



2T柱穴検出状況(北東より)



2T柱穴内土器出土状况

⑤ 王子原遺跡（遺跡番号：M7052）

所 在 地 宮崎県都城市安久町6852
調査原因 その他の建物（市営住宅）
調査期間 2008.7.31～8.1

調査面積 28m²（対象面積：約4,000m²）
調査担当者 米澤 英昭
処置 発掘調査予定（調査年度未定）

位置と環境

都城盆地南に位置する金御岳の麓の安久扇状地に位置する。標高は約172mを測る。

対象地南東約200m地点を平成15年度に王子原第2遺跡として発掘調査を実施しており、縄文時代・古代～中世の遺構・遺物が確認されている。

また、南東約700m地点を平成10年度に王子原遺跡として発掘調査を実施しており、縄文時代前期～晚期、古代の遺構・遺物が確認されている。

調査結果

対象地に7箇所トレンチを設定した。1Tでは、表土以下褐色～黒褐色土、霧島御池軽石、黒色土、鬼界アカホヤ火山灰、黒褐色土の順に良好な堆積が認められたが、遺構・遺物は確認されなかった。2Tは御池軽石直上付近まで削平を受けており、遺構・遺物は確認されなかった。3・6Tでは4層黒褐色土を埋土とする遺構が確認された。4・5Tでは褐色土、黒褐色土を埋土とする遺構が確認された。4・5Tでは褐色土、黒褐色土下鬼界アカホヤ火山灰まで良好な堆積が認められたが、遺構・遺物は認められなかった。7Tは表土直下でコンクリートを検出したため掘り下げを中止した。

出土遺物

1は3T4層出土の白磁IV類。2～4は6T出土の土器器小皿。2は4層出土。口径9.0cm、器高1.45cm、底径6.8cmで、底部の切り離しはへラ切りである。3・4は柱穴内出土。3は口径9.0cm、器高1.3cm、底径7.0cmで底部切り離しは糸切り。4は口径10cm、器高1.2cm、底径8.4cmで、底部切り離しは糸切り。5は3T4層出土の古錢。

まとめ

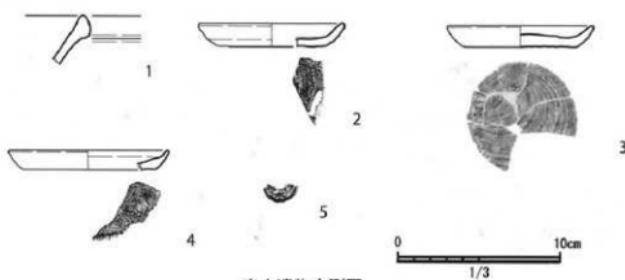
対象地からは一部であるが遺構が確認された。検出面が御池軽石を含む褐色土上面であり、地表面から比較的深いところで遺跡が確認されていることから、開発に際し事前の発掘調査が必要である。



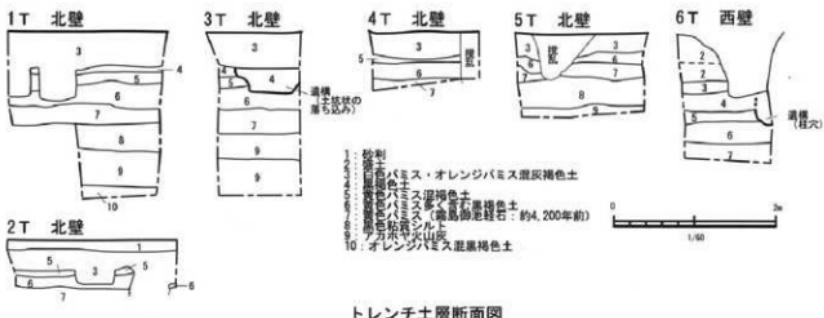
調査区位置図



トレンチ配置図



出土遺物実測図



3 T 北壁



3 T 遺構検出状況



5 T 北壁



6 T 西壁 遺構検出状況

⑥ 前田第1遺跡 棚山第1遺跡 柿木原第2・3遺跡 二重原遺跡 (遺跡番号: YD-Y01 YD-Y04 YD-Y08-09 YD-Y03)

所在地 宮崎県都城市山田町柿木原・前田・棚山
調査原因 農業開発
調査期間 2008.8.19~2008.12.15

調査面積 100m² (対象面積: 6.4ha)
調査担当者 乘畠光博・中村友昭
処置 発掘調査予定

位置と環境

対象地は都城盆地北西部に位置し、丸谷川と山田川に挟まれた柿木原台地に位置する。山田総合支所南側に展開する台地(柿木原地区)と、その東側にある台地(棚山地区)のほぼ全域が県営畑地帯総合整備事業浜之段第1地区予定地に含まれる。標高は約189mである。

柿原地区は、北端部に中世城郭の山田城跡をはじめ、周辺に計9箇所の周知の埋蔵文化財包蔵地が所在している。棚山地区は旧町時代に多量の土器が採集されたことがある。

試掘結果

農道拡幅工事と畑かん用水パイプライン設置工事予定箇所を中心に1m×2mのトレンチを総計50箇所設定し、人力で掘り下げを行った。柿木原地区では、現代の耕地整理によって削平されている箇所も多く、表土直下に霧島御池軽石層が露出する地点もあった。26Tにおいて、近・現代の道路状遺構を確認したのみで、他は遺構・遺物ともに確認されなかつた。一方、棚山地区は比較的多数のトレンチで遺物を確認することができた。このうち、27・28・33・34・35・50Tでは、表土・攘乱層・旧耕作土から遺物が出土しているが、29・30・48・49Tでは霧島御池軽石層上位の黒ボク中から見つかった。特に49Tにおいては、弥生時代後期～終末の土器がまとまって出土しており、何らかの遺構があつた可能性もある。また、27Tでは縄文時代後期の相当層が極端に落ち込んでいる様子が確認されており、何らかの遺構であると考えられる。

よつて、棚山地区の一部においては、遺構・遺物が確認されているため、工事に伴う掘削等によって、遺構・遺物包含層に影響がある場合には事前の発掘調査をする。

出土遺物

1は、29T5層出土の縄文後期の深鉢である。2は、49T4層出土の弥生後期の壺である。

まとめ

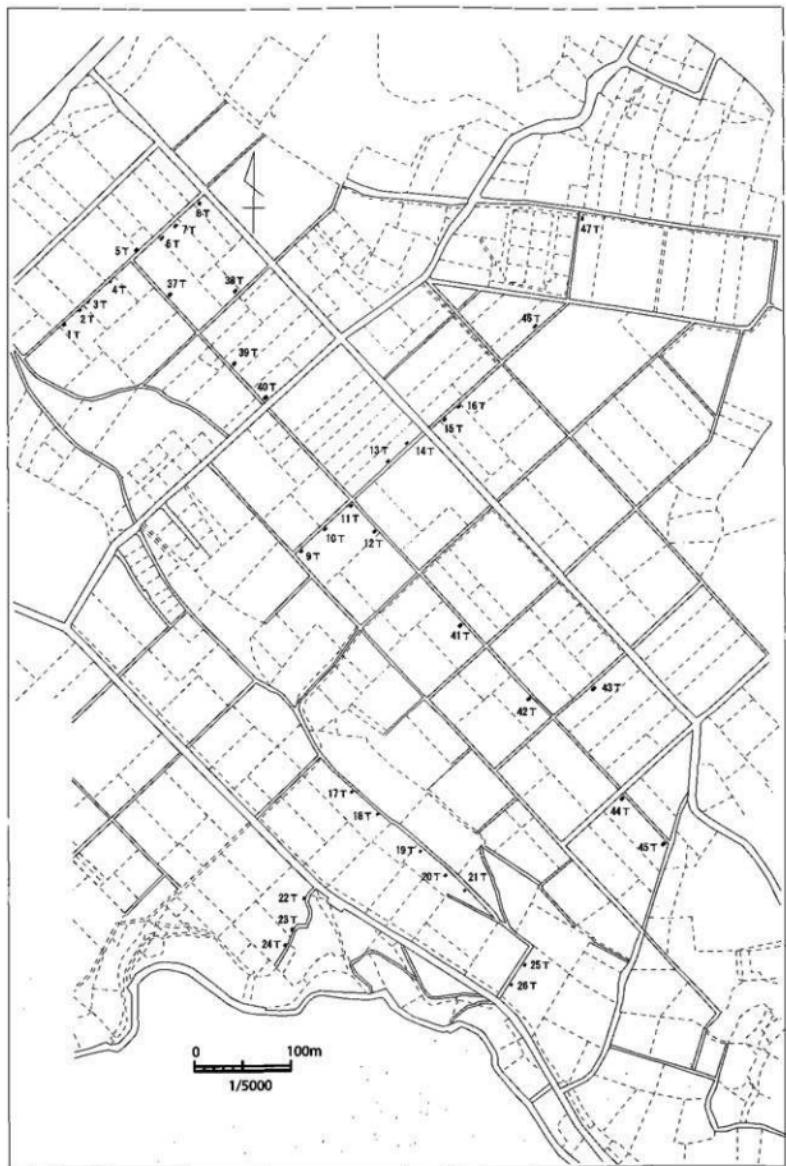
棚山地区の一部においては、遺構・遺物が確認されているため、工事に伴う掘削等によって遺構・遺物包含層に影響がある場合には、事前の発掘調査を要する。また、今回、遺構・遺物が確認されていない地点についても、周知の埋蔵文化財包蔵地内にて土木工事等を行う際は、工事着手前に文化財保護法第94条第1項に基づく通知が必要である。



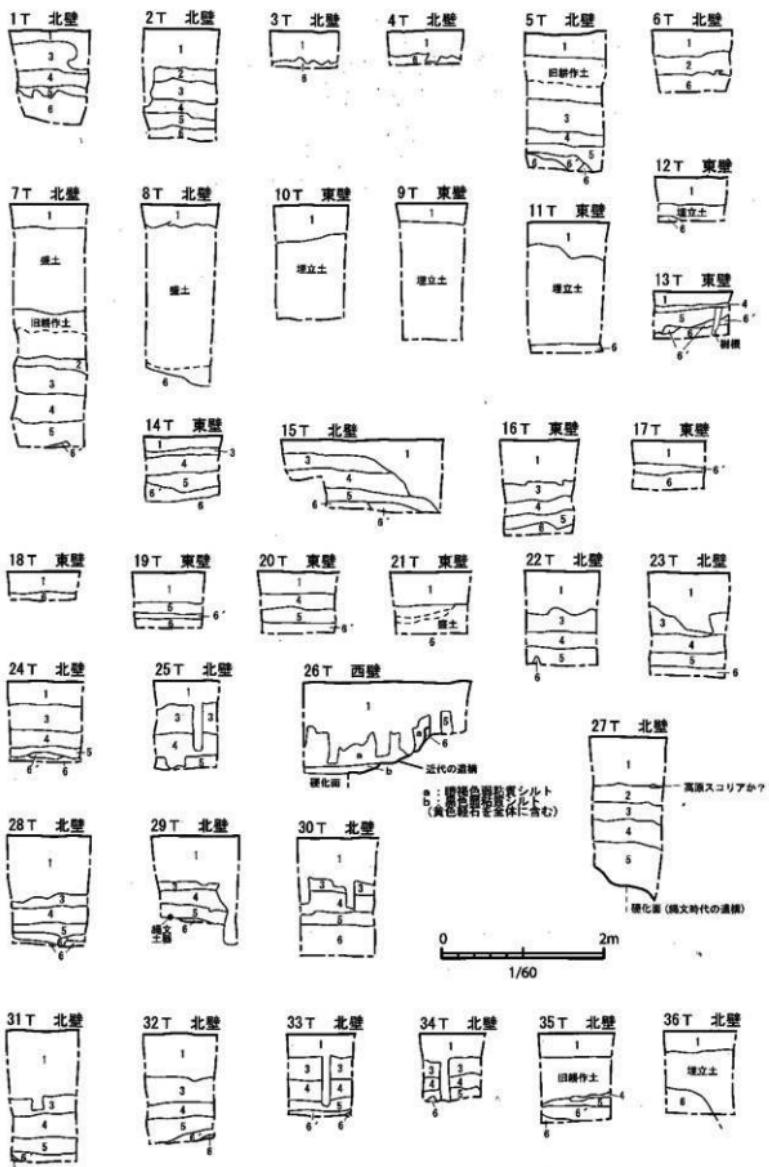
調査区位置図



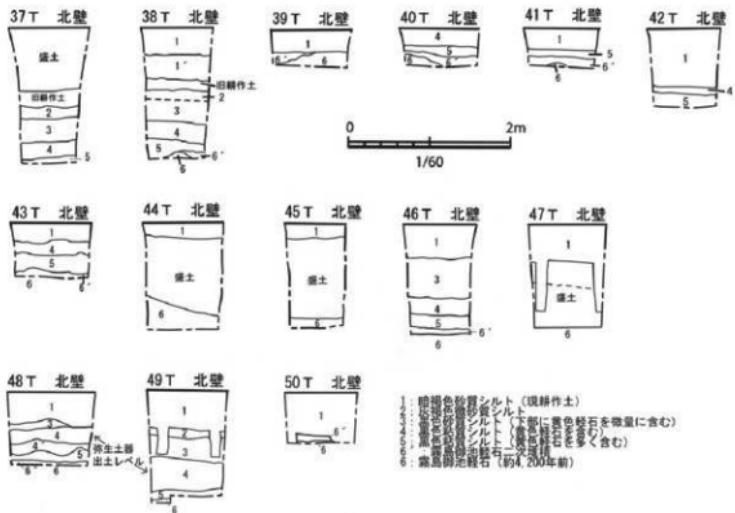
トレンチ配置図1(棚山地区)



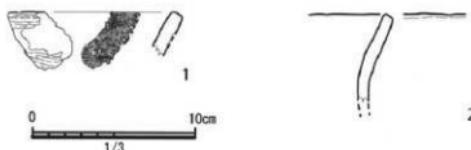
トレンチ配置図2(柿木原地区)



トレンチ土層断面図①



トレンチ土層断面図2



調査地点近景



遺物出土状況

⑦ 鈴川第1遺跡（遺跡番号：M8018）

所在地 宮崎県都城市菴子野町
市道菴子野396号線
調査原因 道路
調査期間 2008.6.30

調査面積 8m² (対象面積750m²)
調査担当者 米澤英昭・加賀淳一
処置 事業着手

位置と環境

庄内川北岸の標高154mの台地上に位置する。対象地南の庄内川河岸段丘面には菴子野地下式横穴墓群が位置する。

試掘結果

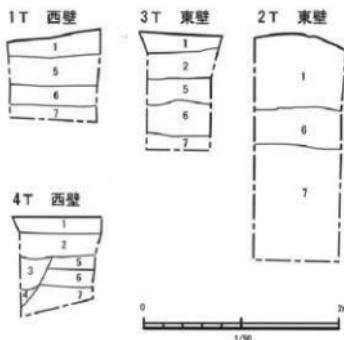
対象地にトレンチ4箇所を設定した。1~3Tでは黒色系土の上部まで削平されており、以下霧島御池軽石まで良好な堆積が認められたが、遺構・遺物は確認されていない。4Tでは東西に延びる構造遺構を検出したが、新しい時期（近世以降）のものであると判断した。

まとめ

対象地にて特段の遺構・遺物は確認されていないが、周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれるため、土木工事等を行う際には、文化財保護法第94条第1項に基づく通知が必要である。

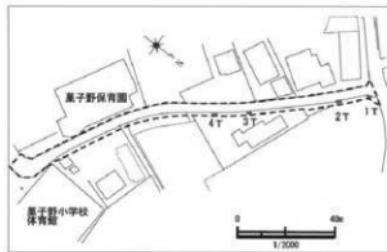


第11図 調査区位置図



- 1: 暗灰色土（表土）
- 2: 白色バミス・黄色バミス混接続色土
- 3: 黄色バミスをわずかに含む墨褐色土
- 4: 灰色土・砂混墨褐色土
- 5: 黄色バミスをまんべんなく含む墨褐色粘質シルト
- 6: 黄色バミスを多く含む墨褐色粘質シルト
- 7: 黄色バミス（霧島御池軽石：約4,200年前）

第13図 トレンチ土層断面図



第12図 トレンチ配置図



4T北壁

⑧ 柳の城跡 (遺跡番号:TZ-N002)

所在 地 宮崎県都城市高崎町繩瀬元2844-1
 調査 原因 農業関連
 調査 期間 2008.4.25

調査 面積 12m² (対象面積: 1,491m²)
 調査 担当者 栗山葉子
 处置 置工事着手

位置と環境

対象地は都城盆地北部の繩瀬台地群に位置し、東側には大淀川が南北に流れている。標高は約150mである。

周辺には前方後円墳1基を含む高崎町塚原古墳群をはじめ、多数の遺跡が所在している。

試掘結果

対象地に2m×2mのトレーナーを3箇所設定し、霧島御池軽石層まで掘り下げを行った。

各トレーナーとも、樹根が認められるものの、表土以下黒色土、黒褐色土、暗褐色土、霧島御池軽石の順で良好な堆積が認められた。

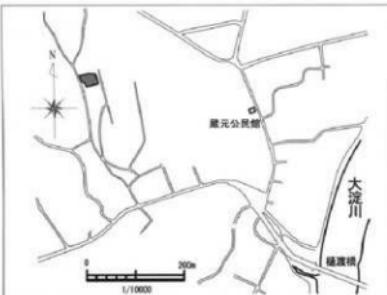
何れのトレーナーからも、遺構・遺物は確認されなかつた。

まとめ

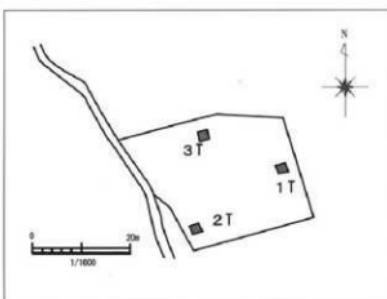
対象地にて、遺構・遺物は確認されていないが、周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれるため、土木工事を等を行う際は、文化財保護法第93条第1項に基づく届出が必要である。



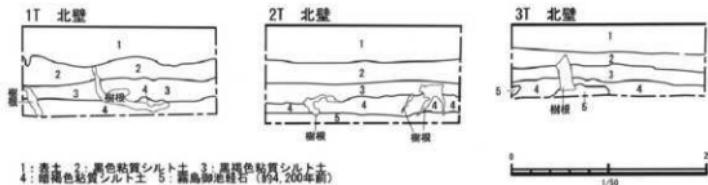
1T完掘状況(南から)



調査区位置図



トレーナー配置図



トレーナー層断面図

⑨ 牧ノ原遺跡群（遺跡番号：TJ2017）

所在地 宮崎県都城市高城町大井出3554、3556、3558
 調査原因 農業関連
 調査期間 2008.4.28～5.9

調査面積 120m² (対象面積: 4,094m²)
 調査担当者 米澤英昭・加賀淳一・下田代清海
 处置 工事着手予定

位置と環境

対象地は大淀川とその支流である東岳川に挟まれた都城盆地北縁の高城台地に位置し、標高約168mを測る。北から南、東から西へと緩やかに傾斜している。

対象地は県指定史跡である高城町古墳群、2号墳の西側隣接地にあたる。平成16年度に対象地より200mほど東側の発掘調査を実施しており、古墳時代の地下式横穴墓をはじめ多数の遺構・遺物が確認されている。

試掘結果

対象地は上段と下段に分かれており、上段に6箇所と下段に4箇所、計10箇所のトレンチを設定した。

全体的に、以前の区画整理によって霧島御池輕石層付近まで削られていたが、それ以下の地層は良好に堆積し、遺構を確認した。地表面から遺構検出までの深さは約30cmである。

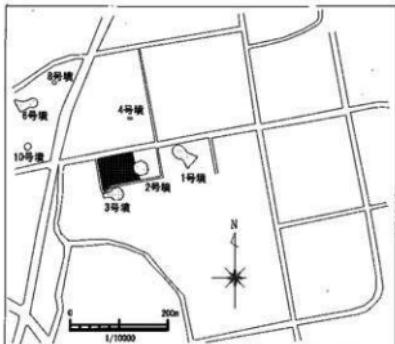
1・4Tでは、円墳である2号墳の周溝を確認した。周溝の規模は、幅約7m、深さ1.2～1.5mである。各トレンチの周溝内からは須恵器等の遺物を検出した。また、周溝の外側では七坑が確認されたが、断面や平面プランから、元々は地下式横穴墓であった可能性が高いと考えられる。近年の区画整理によって大きく改変されたと考えられる。このような土坑は7Tでも確認されている。下段に設定した2・3・9・10Tでは遺構・遺物は確認されていない。

出土遺物

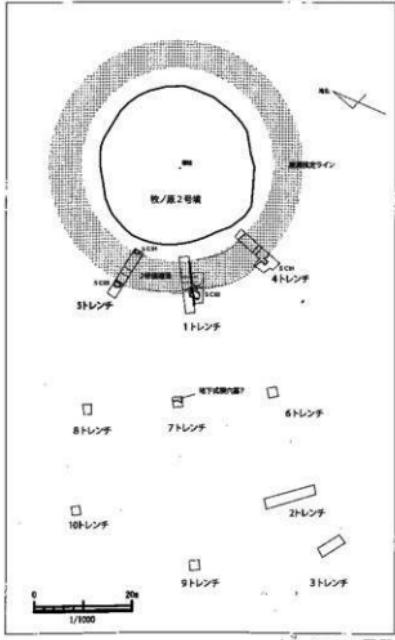
1は、1T5層出土の須恵器甕である(5世紀後半～6世紀前半)。2は5TのSC04出土の朱玉。

まとめ

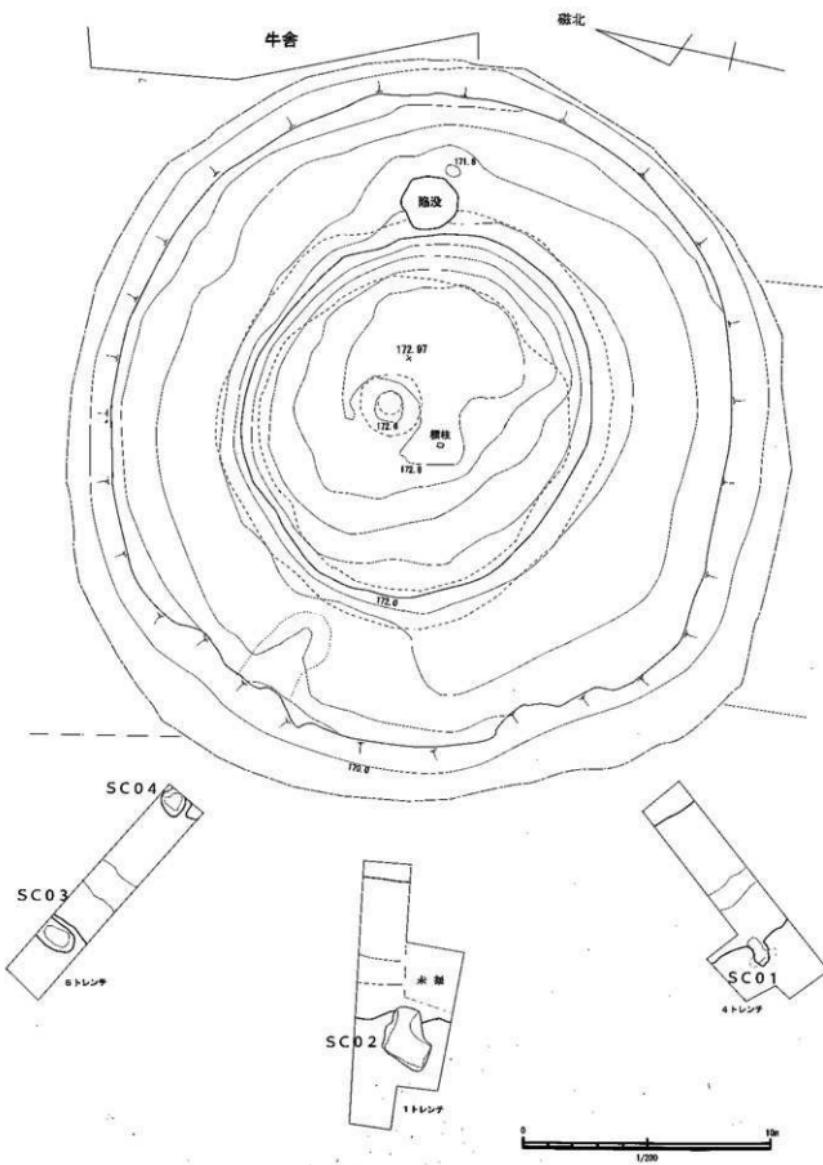
2号墳周辺において、古墳に伴う重要な遺構を確認した。上段部分において工事(掘削)が表土下に達する場合には遺跡を保存するための協議が必要となる。今回、遺構を確認できなかった下段についても、周辺の状況から、慎重な対処が必要である。また、当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれるため、工事着手前に文化財保護法第93条第1項の規定により「埋蔵文化財発掘届出」の提出が必要となる。



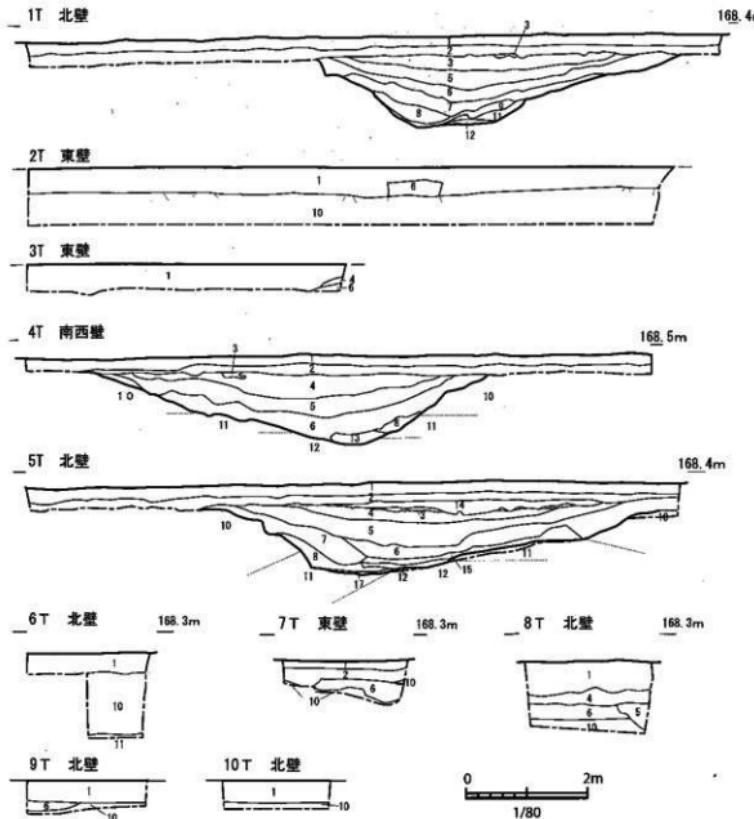
調査区位置図

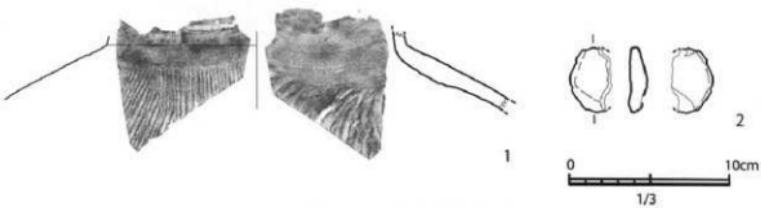


トレンチ配置図



牧ノ原古墳2号墳周溝及び土坑平面図





トレンチ出土遺物実測図



近景



周溝断面



1T



土坑(SC02)断面



土坑(SC02)完掘

⑩ 大年遺跡（遺跡番号:M7031）

所在 地 宮崎県都城市梅北町13667番1
 調査原因 農業関連事業
 調査期間 2008.11.18～2008.11.19

調査面積 28m² (対象面積:3,276m²)
 調査担当者 栗山葉子
 処置 工事着手

位置と環境

都城盆地南西の梅北台地に位置し、標高は約162mである。対象地西側には梅北川が流れている。対象地北部には中世城郭である梅北城跡をはじめ、古代の蔵骨器が出土した尾崎第2遺跡が所在する。

試掘結果

対象地に2m×2mトレンチを7箇所設定し、掘り下げを行った。何れのトレンチも、表土以下、黒色系土、霧島御池軽石が良好に堆積していた。全体的に霧島御池軽石の堆積は薄く、樹根による搅乱を受けているのが目立った。

また、3・4・6・7Tでは霧島御池軽石より下位についても掘り下げを行った結果、土層の良好な堆積が認められ、6Tにおいて薩摩火山灰を検出したが、何れのトレンチからも遺構は確認できなかった。1～4Tの5層黒色土中より、縄文～弥生時代の所産と考えられる土器及び石器が出土し、また、6Tの造成土中より縄文時代早期の円筒形土器が出土している。

出土遺物

1は、2T4層出土出、礫側面から表裏面にかけて磨滅りのある砂岩繩である。2は、6T1層出土の貝殻文円筒形土器である。3は、3T5層出土の縄文時代晩期の深鉢形土器口縁部である。4は、4T5層出土の縄文晩期の深鉢形土器底部である。

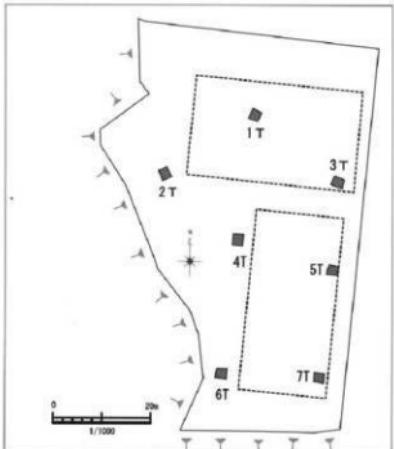
まとめ

遺物は出土しているが遺構は確認できず、対象地は散布地と考えられる。

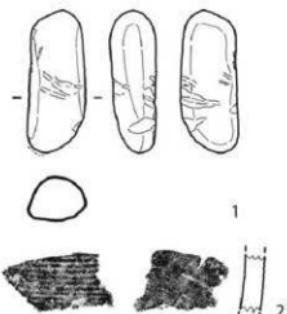
工事による掘削深度が遺物包含層には達しないため事前の調査は必要としないものの、周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれるため、工事着手前に文化財保護法第93条第1項に基づく届出が必要である。



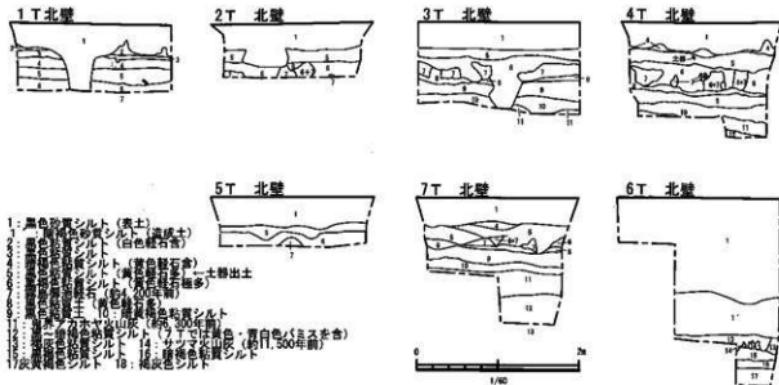
調査区位置図



トレンチ配置図



出土遺物実測図



大年遺跡トレンチ土層断面図

⑪ 新原・出口遺跡 (M9009)

所在地 宮崎県都城市高木町4122外

調査原因 宅地造成

調査期間 2008.12.24~26

調査面積 28m² (対象面積:約1,983m²)

調査担当者 米澤英昭

処置 工事着手予定

位置と環境

対象地は、花木川西側の高木原扇状地端に位置する。標高は約137mである。

試掘結果

対象地内に8箇所トレンチを設定し、調査を行った。1・3・4 Tでは包含層がされており、遺構・遺物は確認されなかった。5・6・8 Tでは遺物包含層である黒色土が残存していたものの、遺構は確認できず、遺物の出土も僅かであった。

2・7 Tでは南北方向に構造遺構が検出され、遺構内から土器器が多数出土している。

1～7は2 T検出溝状遺構から出土した土器器である。1は口径11.5cm、器高4.5～5.0cm、底径5.5cm。2は口径11.0cm、器高5.0cm、底径3.7～4.9cm。3は底径5.0cm。4は口径14.0cm、器高6.4cm、底径5.8cmである。5は口径14.1cm、器高7.35cm、底径6.3cm。6は口径12.0cm。7は口径11.4cm。底部の切り離しはヘラ削りである。これも古代（平安時代）の所産と考えられる。

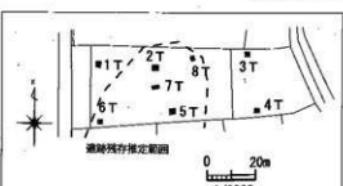
まとめ

調査の結果、2・7 Tを中心には遺構が残存している可能性が考えられ、遺構検出面までの深さは、地表下約40cmである。

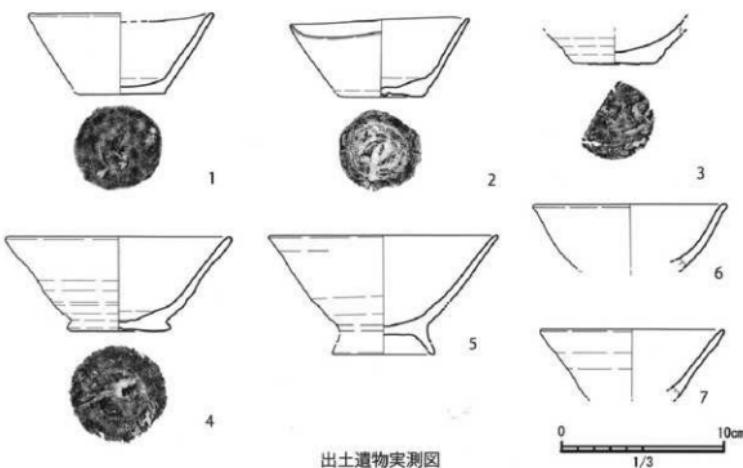
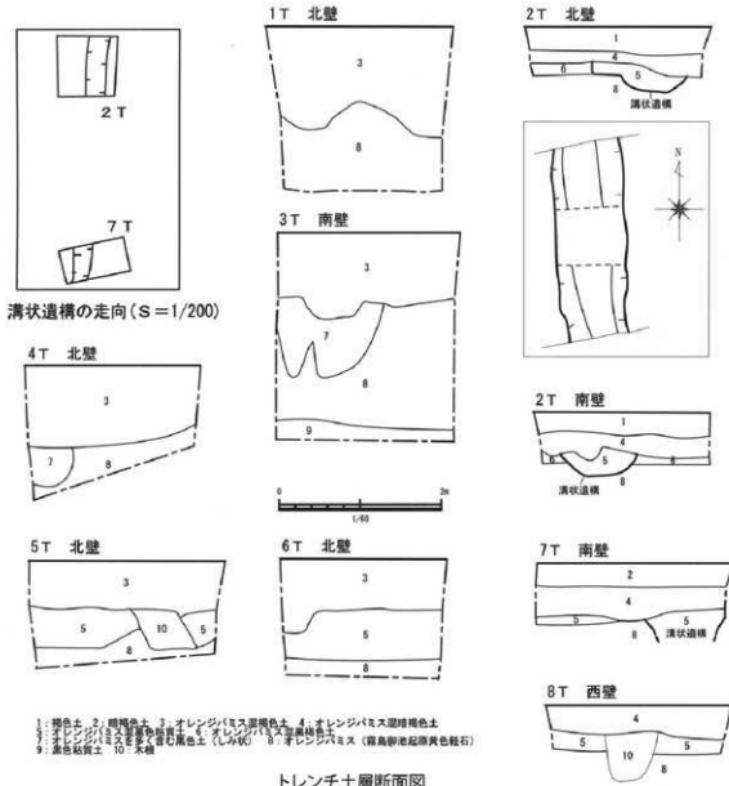
よって、対象地内において開発を行う場合は、事前に協議が必要となる。



調査区位置図



トレンチ配置図



報告書抄録

ふりがな	しないいせき
書名	市内遺跡 2
副書名	
巻次	
シリーズ名	都城市文化財調査報告書
シリーズ番号	第93集
編・著者名	栗山 葉子
編集機関	都城市教育委員会事務局文化財課 Tel 0986-23-9547 Fax 0986-23-9549
所在地	宮崎県都城市菖蒲原町19-1 都城市役所菖蒲原町別館 〒885-0034
発行年月日	2008年3月26日

所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
大岩田村ノ前遺跡	都城市下長坂町5441外付近	31° 42' 22"	131° 3' 57"	2008.5.7~8 付近	24m ²	公園造成
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	縄文・中世・近世	なし		なし		工事着手
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
志和地地区	都城市下水流町2023-1外	31° 49' 14"	131° 6' 2"	2008.5.21~23 付近	74m ²	公園造成
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
枠外		なし		なし		工事着手
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
五十市中学校	都城市久保原町2-6	31° 43' 9"	131° 2' 10"	2008.11.5 付近	4m ²	学校
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
枠外	なし	なし		なし		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
庄内小学校遺跡	都城市庄内町12680	31° 46' 23"	131° 1' 5"	2008.11.11~13 付近	20.4m ²	学校
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
枠外	中世・近世	柱穴・溝状遺構		土師器・陶磁器・瓦		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
王子原遺跡	都城市安久町6852	31° 41' 1"	131° 4' 31"	2008.7.31~8.1 付近	28m ²	その他の中古物 (市営住宅)
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	縄文・古墳・平安・中世	土坑・柱穴		土師器・陶磁器		調査予定
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
前田第1遺跡 桜山第1遺跡 柿木原第2・3遺跡 二重原遺跡	都城市山田町 桜木原・前田・桜山	31° 48' 34"	131° 2' 19"	2008.8.19~ 付近 2008.12.15	100m ²	農業関連事業
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	縄文・弥生・繩文・中世	落込み		土器		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
鈴川第1遺跡	都城市栗子野町 市道栗子野396号線	31° 46' 42"	131° 2' 31"	2008.6.30 付近	8m ²	道路
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	弥生・古墳・中世・近世	なし		なし		未着手

所収遺跡名	所在地	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
柳の城遺跡	都城市高崎町綿瀬鹿元 2844-1	31° 51' 46"	131° 6' 28" 付近	2008.4.25	12m ²	農業関連事業
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
城館跡	中世	なし		なし		工事着手
所収遺跡名	所在地	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
牧ノ原遺跡群	都城市高城町大井手 3554、3556、3558	31° 48' 10" 付近	131° 8' 41" 付近	2008.4.28~5.9	120m ²	農業関連事業
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	縄文～平安	古墳周溝、土坑		須恵器		事業着手
所収遺跡名	所在地	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
大年遺跡	都城市橋北町13667番1	31° 40' 28" 付近	131° 3' 2"	2008.11.18~19	28m ²	農業関連事業
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	縄文・弥生	なし		なし		工事着手

都城市文化財調査報告書 第93集

市内遺跡2

2009年3月

編集 宮崎県都城市教育委員会

発行 〒885-0034 宮崎県都城市菖蒲原町19-1

都城市役所菖蒲原町別館

TEL(0986)23-9547 FAX(0986)23-9549

印刷 (有)都城新生社印刷